TAMABI NEWS

Tama Art University News Magazine

vol.88

SDGs、ESG時代に多摩美ができること

持続可能な社会の実現に向けて

演劇舞踊卒業生の初主演作品が仏映画祭でグランプリを受賞

SDGs、ESG時代に多摩美ができること

持続可能な社会の実現に向けて

大量生産・大量消費・大量廃棄による環境破壊は長年にわたり大きな国際問題となっており、モノづくりや消費行動そのものに対する人々の関心が年々高まる中、アートやデザインのもつ課題発見力・解決力に注目が集まり、その力を発揮する場がますます広がっています。本学ではこうした課題発見・解決型の実践的な産学官共同研究を30年以上行ってきており、今回はその中でも持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「仕組み・素材・自然環境・技術」の4つの視点からご紹介します。

6月10日、多摩美術大学TUB共創プロジェクト『すてるデザイン』始動 記者発表会が行われた

6月17日に行われたTUB第2回企画展『すてるデザインの生まれる場所』講評会の様子。学生がコンセプトや制作プロセスを解説し、廃棄資材を熱する・冷やす・衝撃を与えるなど作品制作を通して発見した新しい表現や加工方法についてプレゼンテーションした

30年超の産学官共同研究で培われた知見を生かし、アート・デザインの課題発見力・解決力を実装につなげる

1985年にスタートした本学の産学官共同研究は、教育支援を目的に大学側から外部組織に依頼するかたちが、現在では外部からの研究支援依頼に応じるというかたちに進化を遂げ、例年数多くの企業・団体から連携の依頼をいただいています。

近年行われた事例では、大手通信事業者の映像技術を用いた真鶴町の魚つき保安林保全を目的とする広報活動計画（2015年・情報デザイン学科）や、「2035年の医療を中心とした八王子の街づくり」をテーマにICT企業・医療機関・美術大学の三者の共創による地域のトータルサポートに関する新しいサービスデザインの考案（2016年・情報デザイン学科）、横須賀市の社会課題解決を目標としたプロダクトと体験価値の創出に関する研究（2018年・プロダクトデザイン専攻）、大手化粧品メーカーとの協働による30年後の美容ソリューションの表現に関する研究（2019年・テキスタイルデザイン専攻）、森林の循環不全という環境問題や地方都市の過疎問題の解決をテーマに流通の仕組みから考案

した椅子や机など5種類のプロダクトデザインの製品化（2019年・環境デザイン学科）などがあります。

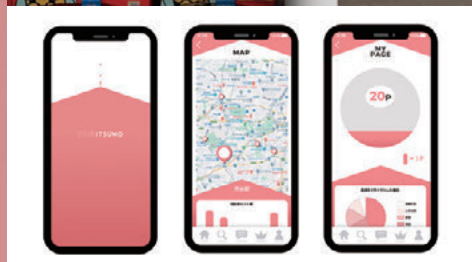
美大のポテンシャルであるアートとデザインのもつ課題発見力・解決力に、企業や地方自治体など幅広い業界から高い関心が寄せられ、社会実装される例も増えてきています。

本学では長年にわたる産学官共同研究で得られた知見や経験を蓄積し、共同研究を効果的に進めるノウハウを確立しており、複数学科のジョイントによる共同研究や横断的なカリキュラムの構築などダイナミックな教育体制を実現してきました。カリキュラムに組み込まれた実践的でリアリティのある産学官共同研究は各方面から高い評価を受け、大手企業との共同研究に加え地方自治体や医療法人などの福祉事業者、海外からの依頼も増加しており、アート・デザインと社会をさらに結びつける新しい展開へと向かっています。

アメリカの協定校アートセンター・カレッジ・オブ・デザインとともに、タイ・チェンマイで水路汚染の原因となっているウォーターヒヤシンスを素材とし、地元の工芸技術を生かしたプロダクトに展開した（2016年Pacific Rimプロジェクトより）

CASE.1 仕組みからのアプローチ | Structural approach

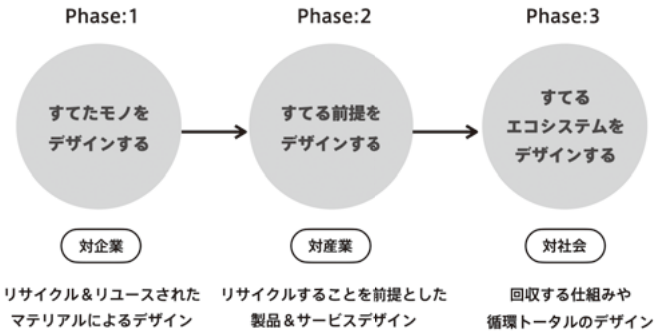
循環型社会に向けた共創プロジェクト『すてるデザイン』が始動



ペットボトルを集めてリサイクルし、駅のベンチに再利用するアイデア『CHIRITSUMO』。統合デザイン学科 永井プロジェクト3年生（イ ユナ、石井麻菜、石川明日香、石脇若奈、加賀明日花）によるグループ制作

2021年5月、本学は企業5社との循環型社会に向けた共創プロジェクト『すてるデザイン』を立ち上げました。東京ミッドタウンにある本学の新拠点TUB（Tama Art University Bureau）が活動テーマとして掲げる「オープンイノベーション」の一環で、デザインの力で廃棄物に新たな価値や魅力を創出する社会課題解決型の取り組みです。その狙いや展望について、TUBディレクターを務める統合デザイン学科の永井一史教授にお話を伺いました。

「すてるデザイン」3つのフェーズ



捨てることを前提に成り立っている経済の仕組みそのものを考え直す

TUBディレクター
統合デザイン学科
永井一史 教授

「この『すてるデザイン』のプロジェクトでは、循環型社会の実現を目指し、使い終わったら捨てることを前提に成り立っている仕組みそのものを問い直す試みです。具体的にはリサイクルを前提とした設計デザインを考えたり、廃棄物の回収・分別する仕組みを提案したり、さらにそこから生まれた素材をリユース・リサイクルするなどの実現を目指しています」

循環型社会とは、有限の資源を効率的に利用し、廃棄されるものを最小限に抑えるとともに、リユース・リサイクルなどを行って資源を持続可能なかたちで循環させながら利用していく社会のことです。従来の大量生産・大量消費・大量廃棄による経済システムにより、天然資源の枯渇や環境問題、廃棄物処分場の限界などさまざまな問題に直面している今、この循環型社会への移行が急務となっています。

そこで、廃棄物の再利用、再使用に関するコンサルティングなどの事業を行っている株式会社モノファクトリーを中心に、伊藤忠リーテイルリンク株式会社、株式会社ナカダイ、ブックオフコーポレーション株式会社、プラス株式会社をはじめとする企業5社と協働し、デザインの力で廃棄物の発生抑制や捨て方自体を根本から変え、新しい価値や意味を与えることを目的に生まれたのが、この『すてるデザイン』プロジェクトです。

「膨大な廃棄物も見方を変えれば資源として活用できますし、そこから『すてない

デザイン』を生み出すこともできるでしょう。廃棄されたCDや使い古された金属で作ったオブジェ、プラスチックや針金のリサイクルによるジュエリー提案など、社会ですぐに役に立つような優れたアイデアがすでに学生たちから生まれています」

廃棄物を『100倍の価値』に変える

『すてるデザイン』の プロジェクト発足以来、プロジェクトリーダーの濱田芳治教授が所属するプロダクトデザイン専攻を中心に、永井先生の所属する統合デザイン学科でも授業の一環として『すてるデザイン』に取り組んでいます。また、情報デザイン学科での授業の取り組みもはじまっており、学科横断的なテーマとしても広がっています。「統合デザイン学科での課題では、リサイクルできる食品トレイの活用法や、100%リサイクルしていく100円ショップの提案など、学生の生活の実感のなかから生まれたアイデアが色々と出ました。駅で捨てられたペットボトルを、皆が使う公共物にリサイクルするというアイデアは、参加する人の新しいモチベーションの作り方として面白い視点だと思いました」

学生が具体的にデザインに関わる機会として、1)企業に対し、リサイクル＆リユースされたマテリアルによるデザインを行う、2)産業に対し、リサイクルすることを前提とした製品＆サービスのデザイン行う、3)社会に対し、回収する仕組みや循環のトータルデザインを行うという3つのフェーズを用意し、それに基づいてプロジェクトを進めています。学生たちはそれぞれのフェーズにおいて、日常のちょっとした気付きから自ら問いを立て、試行錯誤を重ねながら、その課題解決に向けた提案作品を制作していきます。

TUBの企画展の一環として行ったプロジェクトでは、廃棄物を『100倍の価値』に変えるというテーマに、統合デザイン・プロダクトデザイン・情報デザインのデザイン系学科だけでなく日本画・彫刻・工芸などのファイン系の学科の学生も加わり、『すてるデザイン』に取り組みました。廃棄されたCDのもつ特性を生かして時計にアップサイクルした作品や、捨てられた金属の形を生かしパズルのように組み合わせて作られたダルマのオブジェもユニークなアプローチでした。日本画専攻の学生からは落ち葉や枝を活用した、課題解決ではなく心に訴えかけるアート作品の提案など

大学院工芸（金属）2年　下 虎之介
「HAIKIMONO -daruma-」

日本画4年　三井 悠華
「さよならの気配」

統合デザイン3年　小林 優季
「時を刻むCDたち」

もあって、鑑賞する側にも 新たな気づきを与える作品が多く生まれました。

「気候変動と同様、循環型社会はとても大きな社会テーマで、個人ではその前でなすすべもなく、立ちすくんでしまいます。そんな中で、『これはいいかも』とか『自分にもできるかも』といった気持ちを多くの人に生み出せたらと考えています。この活動が本当に社会を変えていくためには、学生はもとより関心のある企業や社会人も巻き込みながら大きな枠組みにしていく必要があります。そのためには、プロジェクト自体をどうデザインしていくかも重要です」

研究者や実践者のレクチャーなどによって、この領域の知見を深めたり、活動そのものを発信することも行っており、その結果、関心を持ってこのプロジェクトに参加を希望する企業も出てきています。TUBやそれぞれの学科内での展示時に行われる講評会では、学生のプレゼンテーションに対し教員らがさまざまな角度からフィードバックをすることで、学生に新たな視点が加えられるなど意義深い機会となっています。

「何より学生が、このような社会問題への意識を高めると同時に、その解決を考え、かたちにする力をつけることが大事です。そんな学生が、卒業し社会に出ていくことで、さまざまな場所での取り組みが増え、少しずつ社会が変わっていくのではと思っています」

これからの時代に不可欠な課題発見力・解決力を多摩美の教育環境で身につける

そもそもデザインとは、身近な自然や社会に目を向け、思考を働かせながらより良い生活を実現させるためのプロセスを意味します。

「単純にモノをカタチにするだけでなく、私たち人間の活動そのものと深く結びついています」

こうしたデザイン視点の発想を求めて、企業や行政、一般大学などさまざまな機関で美大式のデザイン教育に注目が集まっています。アートやデザインが現代社会の中で果たす役割は非常に大きく、デザインリテラシーは先行き不透明な時代を生き抜くためのスキルとしてますます重要視されています。

「多摩美は長い歴史の中で芸術の領域を深く研究し、その成果を基に数多くの学生の教育を行ってきた実績のある大学です。その専門性の高さや充実した設備を最大限に活用し、これからの時代に不可欠な課題発見力・課題解決力を身につけ、社会に還元してほしいと思っています」

8月に行われた『すてるデザイン』勉強会の様子

誰でも参加できる『すてるデザイン』勉強会も開催

TUBのオープンイノベーション第一弾としてスタートした共創プロジェクト『すてるデザイン』では、有識者の講師による研究プログラム『すてるデザイン』勉強会を開催しています。取り組む上で必要となる知識を深めるため、さまざまな視座から「すてる」を知り、学び、考える機会を提供するものです。誰でも無料で参加できるオンラインレクチャーで、過去3回の開催では学生のみならず関心を寄せる一般の方が数多く参加しています。こうした勉強会や作品展示などを通して本プロジェクトの輪を広げていくことを目指しています。

CASE.2 素材からのアプローチ | Material approach

人々の生活と共にあるテキスタイルから学び持続可能な社会を探究する

氷室友里（11年卒業・大学院13年修了/株式会社 HIMURO DESIGN STUDIO ）卒業制作「ルワンダのラグマット〈風土に根ざすものづくりの研究〉」バナナ繊維

テキスタイル文化には伝統的に天然素材から糸と布を作り、端切れや襤褸（ぼろ）を再生するモノづくりがあり、環境問題を考え持続可能な社会を築くための示唆を得ることができます。テキスタイルデザイン専攻の『バナナ・テキスタイル・プロジェクト』(2001-16)はそのような取り組みの一つです。バナナ生産国で大量廃棄され未利用だったバナナの偽茎から新たな素材を開発し途上国支援に尽力しました。本専攻に受け継がれる教育と成果について、川井由夏教授と辛島綾准教授にお話を伺いました。

大友真希（04年卒業/多摩美術大学芸術人類学研究所）
卒業制作「ここではない地球と太陽の関係を記録する」麻、菖蒲の葉

（左）ウガンダ共和国カンパラでのワークショップ
姫田亮（09年卒業/スズキ株式会社）
（右）ルワンダ共和国キガリのバナナ農園

地球環境・貧困問題とテキスタイルを連携させたプロジェクト

布は人々の生活と共にあり、風土に根ざした素材と染織技術によって発展してきました。テキスタイルデザインは、そうした歴史的背景をもつ領域です。本専攻の学生は繊維に関する知識を深め、布の機能や文様の役割・色彩の力などを学び新しいテキスタイルを創り出し、どのように社会と関わるかを学んでいます。

環境問題について包括的に考えモノづくりを進めることを求められる現代では、循環型資源について研究することは大変重要です。99年にハイチ共和国で日本政府やJICAの支援でバナナペーパーの開発が始まり、さらに汎用性の高い織布制作の要請があり、テキスタイル教育の実績と伝統染織からの知見を生かした研究・活動が『バナナ・テキスタイル・プロジェクト』です。

バナナ農園では、収穫後にバナナの偽茎部分を伐採することで、根元の発芽を促し、新たな果実を収穫します。大量廃棄され未利用だった偽茎から繊維を抽出、織布や紙、ボードなどの素材・製品作りを研究しました。バナナ糸の製法は、同じ芭蕉科の植物としての類似点に着目し、沖縄の伝統織物「芭蕉布（ばしょうふ）」にならい研究をはじめました。熱帯地方のバナナ生産国の多くが貧困問題を抱えていたため、雇用創出が一つの目標であり、バナナ繊維を利活用した途上国支援

を目指し、環境負荷の少ない制作方法を選択しました。

地球環境・貧困問題とテキスタイルデザイン教育を連携させたプロジェクトには多くの教員・学生が参加しました。ウガンダ、ルワンダやフィリピンなどへ招聘されデザイン・技術指導を行いました。

テキスタイルと環境問題を包括的に考察し活動したプロジェクトは、新たな研究へと展開し、その成果が授業に活かされています。

土や植物に触れることで“生命の循環”を体感し、未来を種から切り拓く

『紙漉き』では、夏に大学周辺に繁茂する葛を刈り取り、繊維を加工し紙をつくる実習を行います。また、PBL『布づくり演習』と『紙づくり演習』では、テキスタイル棟で廃棄された端切れや残糸、紙屑なども活用しています。

『テキスタイルの色』では、テキスタイル棟脇の畑で、藍を種から育て染料を作ります。キャンパスを巡りさまざまな樹木や草花を知り、色を抽出する方法を学びます。剪定で廃棄される枝葉を譲り受けることもあります。学生がモノの大切さや生命の尊さに気づく契機となり、豊かな感性が育まれることを期待しています。

その畑には、NHK「ECOパーク2013」で行ったワークショップ「みんなで織ろう未来の樹　オーガニック素材で作るエコタペストリー」で、学生が参加者と共に作ったタペストリーが埋められています。土から生まれ植物の命は土に還る、循環する自然の営みを自らの目で見て肌で感じることで、はじめて環境問題の本質を知り理解に繋がるという考えがありました。

これらの授業では、植物の成り立ちから天然素材や繊維資源の循環的な利用法について考察を深めています。

テキスタイルデザイン専攻では、“SDGs”や“サステナブル”という言葉について、自然豊かなキャンパスで土や植物と触れ合う実習を通し、学生自らがその意味を考えるように促します。さらにSDGsについて理解を深めるレクチャーやワークショップを行い、考える力を養い実践に繋げるようにしています。

長年、積み重ねてきた研究と体験学習の循環から次世代の創造の芽が育ち、さまざまな実りがあります。

妹尾めぐみさん（11年大学院修了）と高野紘子さん（11年大学院修了）はバナナ・テキスタイル・プロジェクトの助手として研究・活動を支えました。妹尾さんは、子供たちに繊維の循環を伝える古着リサイクルの造形を研究し、現在はラオスと徳島を拠点に地域の人々と共に手仕事を核に活動しています。高野さんは、バナナ繊維の織布制作を研究し、現在は環境に関するNPO法人事務局に勤務

畑で育てた藍を収穫し染料をつくる学生と辛島綾准教授（１年生「テキスタイルの色」）

SDGsに関するワークショップ（３年生STUDIO ３）

大野亜紀（04年卒業）
卒業制作「クズScrap」
裁断クズなどリサイクル素材

している。高野さんをリーダーに、姫田亮さん（09年卒業/インドで車両のデザイン企画・開発で活躍するカラーデザイナー）、小林万里子さん（12 年大学院修了/命の再生をテーマにしたテキスタイル作品で注目を集めるアーティスト）、氷室友里さん（13年大学院修了/国内外で幅広く活躍するテキスタイルデザイナー）の4名は、学生代表として共にウガンダ、ルワンダで活動しました。

その他にもバナナ・テキスタイル・プロジェクトに積極的に参加した学生が独自の活動を展開し活躍しています。

テキスタイルは、高齢者施設や医療の現場からも高い関心を寄せられています。テキスタイルの柔らかな素材感と豊かな色彩による表現力を社会に生かす研究活動を展開していきたいと思います。持続可能な社会の実現に向けて未来を種から切り拓き、人の心と暮らしに寄り添う次世代の力に期待し、SDGsのためにテキスタイルに何ができるか学生に考えてもらいたいと思います。

琉球糸芭蕉から繊維を抽出し加工する学生と川井由夏教授（３年生STUDIO 3）

CASE.3 自然環境を生かしたアプローチ | Approach utilizing natural environment

未来を見据えて「今」をデザイン 想像力を働かせながら環境と共生する

COOL SHARE

猛暑時のWBGT値（暑さ指数）を測定して涼しい場所を紹介する『東京クールスポットマップ』を作成

環境デザイン学科の堀内正弘教授のチームによって発案された『クールシェア』モデルは、環境省や地方自治体とともにCO_2削減と夏の熱中症対策を推進。脱炭素アクションの原点ともいえるこの取り組みを中心に、これからの社会課題や環境デザインのあり方について伺いました。

環境デザイン学科
堀内正弘 教授

“自分ごと”として 環境への意識をもつことが大切

「環境問題を解決するには、より多くの人が“自分ごと”としてとらえ、すぐできることから行動を起こすことがとても大切です。そのためのきっかけづくりが、アートとデザインの力でできると考えています。『クールシェア』は、2011年の東日本大震災直後のゼミで、東京にいながら我々に何ができるか”という問いかけに対し、学生との対話から生まれたアイデアです」

電力供給が逼迫していることから調査をしたところ、その夏の「猛暑時の電力消費」をいかに減らすかという課題が出ました。家庭のエアコンによる電力消費が突出している、そこで不要なエアコンを消して、街にあるエアコンを皆で分かち合おうという呼びかけです。最初は大学近くのお店や商店街に働きかけて実施したところ、同年行われた環境ビジネスウイメン主催による『エコジャパンカップ2011』のカルチャー部門でグランプリを受賞。2012年にはクールシェアが環境省の施策に取り入れられ、2015年からは9都県市の取り組みが始まり、熱中症対策としても注目されています。

「学生からは、熱中症予防のための『クールシェアハット』の考案や、からくり人形のアイデアを取り入れた『打ち水自転車』の構想などユニークな提案作品が次々と誕生しています。これらは美大ならではの展開で、地域や行政と協働しながら社会に貢献することで、学生たちに大きな成長をもたらしました」

堀内チームは情報を共有するためのシステム構築にも取り組み、2012年に環境省の委託を受けて『クールシェア・マップ』を作り、2019年からは屋外で快適に涼める場所を検索できる『東京クールスポットマップ』を公開しています。

2050年を見据えて 社会の仕組みをリデザインする

「たとえば、今の流通システムが大量の食品ロスを生み出すという問題に対して、余った食材をいかに活かすかというのが今のSDGsの取り組みの典型例ですが、それには限界があります。そもそも、食品ロスを出さないような社会にしていくという抜本的な社会のリデザインが必要です。そのための未来図を描く。そのための飛躍ができるのが若者のイメージ力で、そのための表現技術が美大生の特技なのだから、特に学生に期待していることです」

堀内チームでは、SDGsのゴールとしている2030年よりさらに先、2050年を目標としています。

「今は学生が名付けた“涼都2050”をテーマとして、都市のヒートアイランド現象を低減させるための都市デザインの提案に取り組んでいます。技術革新は重要ですが、このようなビジョン、目標を社会で共有するための価値の創出に向けた多摩美生の活躍に期待したいと思います」

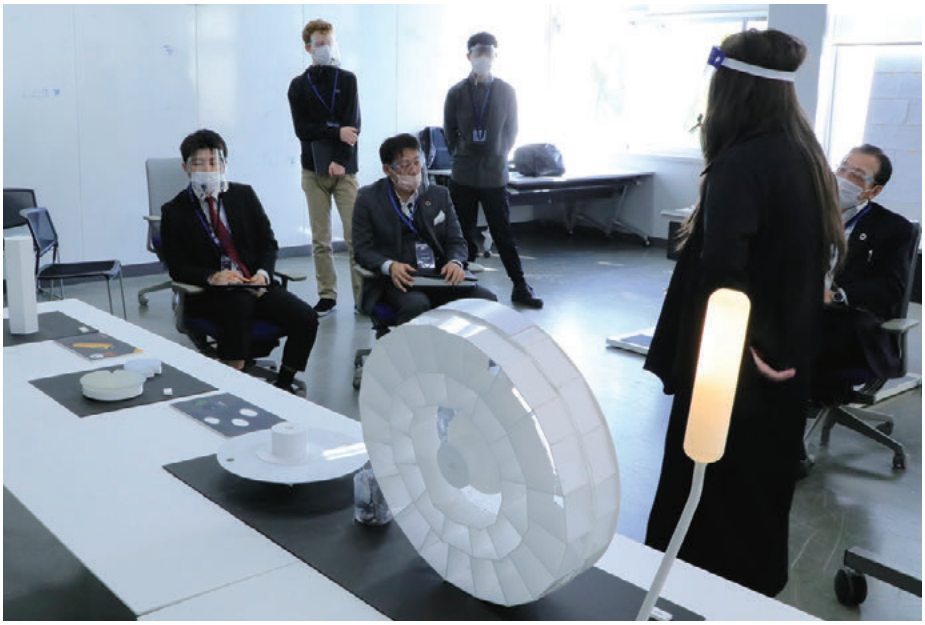
2012年、細野豪志環境大臣（当時）に学生が『クールシェアマップ』を説明する様子

折り紙の「カブト」にヒントを得て、学生らが考案した『クールシェアハット』

江戸時代の「打ち水」から発想した自転車。
からくり人形が柄杓で水打ちをするというアイデア

CASE.4 技術を生かしたアプローチ | Technological approach

水発電技術の価値を無限大に広げる力



10月26日に行われたE.F.E株式会社との産学連携プロジェクト中間プレゼンの様子

プロダクトデザイン専攻の中田希佳教授のプロジェクトでは現在、有害物質を排出しない画期的な「水発電技術」を開発したE.F.E株式会社との産学共同研究に取り組んでいます。中田先生に本プロジェクトの概要と持続可能な社会の実現に向けたアート・デザインの可能性について伺いました。

プロダクトデザイン専攻
中田希佳 教授

技術を使うシーンや場所を設定することで新しいニーズが生まれる

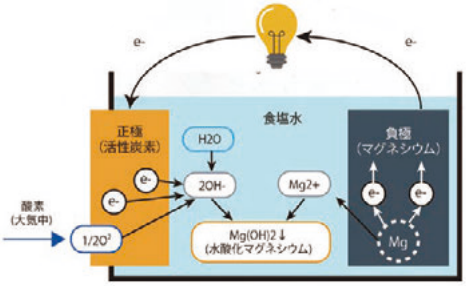
E.F.E株式会社が2018年に開発した水発電機「ENECTRON(エネクトロン)」は、水と塩とマグネシウムの化学反応を利用して発電するシステムで、約2.5リットルの塩水で約80時間の電力供給ができます。有害物質を使用していないため、触媒のプレートを交換することで再利用が可能となり、災害時などの簡易電力としても活用できる安全性の高い発電技術です。

「使うシーンや場所、ユーザーを限定した商品開発を行えば新しいニーズが生まれ、世界的な展開も期待できると感じました。そこで3人の学生にそれぞれ異なるテーマのデザインを提案してもらうことにしました」

1つ目は地球上のあらゆる「暮らし」をテーマに奥地での農村生活や水上生活など電力インフラが未発達な国での展開を意識した製品開発、2つ目は「遊ぶ」をテーマとしたアウトドア商品のブランディングと製品提案、3つ目はプロモーションデザインの提案として水発電技術を用いたアート作品の制作です。通常の産学連携以上に研究要素が多いことから、4年生と大学院生が卒業・修了制作レベルの長期プロジェクトとして取り組んでいます。

「電力供給が未発達な国では簡易インフラとして利用できるよう、縦にも横にも置ける六角形の発電機や水に浮かべて使える照明など研究しています。

水発電の発電原理



マグネシウム・酸素・塩水の化学反応によって発電する画期的な特許技術

E.F.E株式会社が開発した水発電機「ENECTRON(エネクトロン)」。学生たちはこの原理を応用して、超小型の発電機や六角形の発電機など3種のデザイン提案に取り組んでいる

アウトドア用には小型の水発電機を作り、ユニットを取り付けることで虫よけや風を送るファンを制作するなど多目的な活用ができる製品の研究を進めています。アート担当の学生に関しては、水発電そのものの良さや楽しさ、美しさを知ってもらえるような作品制作を行っています」

人々の生活がある限り、アートやデザインは豊かさや喜びを提供し続ける

同社の技術に学生ならではの視点やデザインの魅力を加えることで、企業側に新たなビジョンを提供することを目指しているとのこと。

「先人の優れた技術をリスペクトした上で、どうしたらより生活の中で使ってもらえるかを考え、その技術が持つ価値を無限大にまで広げていくのがデザインの役割だと学生たちには伝えています」

環境に配慮された製品であることが当然の選択基準になってきている今、持続可能な社会の実現に向けたアート・デザインの可能性について、中田先生はどのように考えているのでしょうか。

「人々に豊かさや喜びを提供するのがアート・デザインの役割の一つなので、世の中がどれだけ変わろうとも人々の生活がある限り、その可能性がなくなることはありません。時代を先読みしてアートとデザインができることは何かを考えて、どんな状況もさりげなくしなやかに対応できる社会をつくることが理想です。SDGsの目標も『気がついたら達成していた』というのが良いですね」

学校法人多摩美術大学　令和２年度会計報告

❶ 資金収支計算 【資金収支計算総括表】 資金収支計算について、その主な内容を報告します。

自 令和 ２年４月 １日
至 令和 ３年３月31日

収入の部

（単位：千円）

科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金収入	7,753,373	7,790,842	△37,469	①
手数料収入	186,410	208,243	△21,833	
寄付金収入	55,000	54,300	700	②
補助金収入	581,100	605,283	△24,183	③
（うち、国庫補助金収入）	(580,000)	(604,320)	(△24,320)	
（　〃　地方公共団体補助金収入）	(400)	(263)	(137)	
（　〃　学術研究振興資金収入）	(700)	(700)	(0)	
資産売却収入	200,400	200,420	△20	④
付随事業・収益事業収入	37,500	44,768	△7,268	⑤
受取利息・配当金収入	65,000	67,580	△2,580	⑥
雑収入	232,600	245,283	△12,683	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	3,416,850	2,996,193	420,657	
その他の収入	2,658,375	2,676,785	△18,410	
資金収入調整勘定	△4,024,845	△4,115,262	90,417	
当年度資金収入合計(A)	11,161,763	10,774,435	387,328	
前年度繰越支払資金	15,261,852	15,261,852	——	
収入の部合計	26,423,615	26,036,287	387,328	

支出の部

（単位：千円）

科目	予算	決算	差異	
人件費支出	3,950,400	3,907,575	42,825	⑦
教育研究経費支出	2,994,977	2,774,678	220,299	⑧
管理経費支出	388,050	337,406	50,644	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	2,910,000	2,521,006	388,994	⑨
設備関係支出	651,200	489,781	161,419	
資産運用支出	1,742,000	1,733,714	8,286	⑩
その他の支出	439,543	439,057	486	
予備費	331,600	——	331,600	
資金支出調整勘定	△404,915	△426,244	21,329	
当年度資金支出合計(B)	13,002,855	11,776,973	1,225,882	
翌年度繰越支払資金	13,420,760	14,259,314	△838,554	⑪
支出の部合計	26,423,615	26,036,287	387,328	
当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,841,092	△1,002,538	△838,554	

①大学院の定員充足等により予算額を上回りました。
②多摩美サポーター募金による恒常的な募集により予算額は下回りましたが、前年度実績より大幅に増加しました。
③私立大学経常費補助金４億7,975万円、うち特別補助3,012万円(成長力強化に貢献する質の高い教育1,040万円、大学院等の機能の高度化1,972万円)の交付がありました。
昨年度より一般補助、特別補助ともに減少しましたが、予算額を上回りました。
④財投機関債２億円の有価証券満期償還額です。
⑤教員免許状更新講習料収入は減少しましたが、多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム講座開講による公開講座収入が増加し、予算額を上回りました。
⑥長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額を上回りました。
⑦人件費全体が抑えられたことにより、予算額を下回りました。
⑧消耗品費、奨学費、通信費、営繕費、業務委託費等が昨年度決算額よりも増加しましたが、光熱水費や旅費交通費、修繕費等の減少もあり全体としては予算額を下回りました。
⑨学生寮･･･学生寮(オリーブ館)新築工事。
八王子キャンパス･･･工芸棟ガラス工房の改修、第２工作センター改修工事、グリーンホール給湯設備更新工事、絵画北棟スチール棚取付。
上野毛キャンパス･･･換気設備工事。
美術館･･･展示室2F吹き抜け前スライディングウォール設置工事等を実施しました。
⑩減価償却引当特定資産を10億円増額(合計103億円)しました。
多摩美サポーター募金により第３号基本金引当特定資産を増額しました。
有価証券を新規に購入しました。
⑪上記により次年度繰越支払資金が予算対比では増加、前年度決算額対比では△10億254万円減少しました。

❷ 事業活動収支計算 【事業活動収支計算総括表】 事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

（単位：千円）

	科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,753,373	7,790,842	△37,469	
	手数料	186,410	208,243	△21,833	
	寄付金	54,700	52,787	1,913	
	経常費等補助金	581,100	605,283	△24,183	
	付随事業収入	37,500	44,768	△7,268	
	雑収入	232,600	244,640	△12,040	①
	教育活動収入計	8,845,683	8,946,563	△100,880	
	人件費	3,976,400	3,930,595	45,805	②
	教育研究経費	4,138,477	3,896,376	242,101	③
	（うち、減価償却額）	1,143,500	1,121,698	21,802	
	管理経費	444,000	393,776	50,224	
	（うち、減価償却額）	59,950	59,933	17	
	徴収不能額	0	0	0	
	教育活動支出計	8,558,877	8,220,747	338,130	
	教育活動収支差額	286,806	725,816	△439,010	
	科目	**予算**	**決算**	**差異**	
教育活動外収支	受取利息・配当金	65,000	67,580	△2,580	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	65,000	67,580	△2,580	
	借入金等利息	0	0	0	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	0	0	0	
	教育活動外収支差額	65,000	67,580	△2,580	
経常収支差額		351,806	793,396	△441,590	

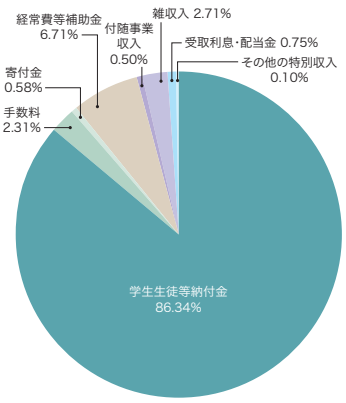
（単位：千円）

	科目	予算	決算	差異	
特別収支	資産売却差額	420	440	△20	④
	その他の特別収入	1,300	9,131	△7,831	⑤
	特別収入計	1,720	9,571	△7,851	
	資産処分差額	5,050	2,679	2,371	⑥
	その他の特別支出	4,000	3,563	437	
	特別支出計	9,050	6,242	2,808	
	特別収支差額	△7,330	3,329	△10,659	
［予備費］		330,800	——	330,800	
基本金組入前当年度収支差額比率　(注)		0.2%	8.8%	——	
基本金組入前当年度収支差額		13,676	796,725	△783,049	
基本金組入額合計		△1,471,105	△774,331	△696,774	
当年度収支差額		△1,457,429	22,394	△1,479,823	
前年度繰越収支差額		△2,609,570	△2,609,570	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△4,066,999	△2,587,176	△1,479,823	⑦
事業活動収入計		8,912,403	9,023,714	△111,311	
事業活動支出計		8,898,727	8,226,989	671,738	

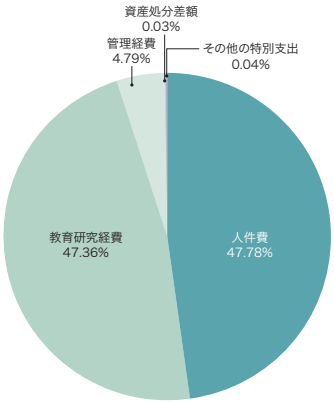
注：基本金組入前当年度収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100

①退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。
②退職給与引当金、法定福利費は前年度実績より増加しましたが、全体的に減少したことにより、人件費は予算を下回りました。
③前年度実績比では、奨学費、通信費等が増加しましたが、減価償却額、光熱水費等の減少により、全体額は予算を下回りました。
④額面以下の価格で購入し運用していた債券(住宅金融公庫債)の満期償還による額面と購入額の差額及び車両の売却です。
⑤個人から美術参考品７点、420万円、科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品・図書10点の他、278万円相当額の寄贈や施設設備に対する寄付金等がありました。
⑥図書の汚損・紛失・除籍による処分差額です。
⑦上記の結果、事業活動収入は90億2,371万円となり予算を上回りました。
また、基本金組入前当年度収支差額比率は8.8%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は2,239万円となり、翌年度繰越収支差額は△25億8,718万円となりました。
この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(50億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

事業活動収入(90.2億円)の構成比率



事業活動支出(82.3億円)の構成比率



❸ 貸借対照表（兼財産目録）

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

令和3年 3月31日

資産の部

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減	
固定資産	(57,888,187)	(57,021,808)	(866,379)	
有形固定資産	(37,625,443)	(35,794,483)	(1,830,960)	
土地（198,947.99㎡）	14,275,479	14,275,479	0	
建物（116,956.70㎡）	17,056,808	14,061,674	2,995,134	①
構築物（369件）	2,123,947	1,931,813	192,134	
教育研究用機器備品（12,191点）	1,045,411	1,076,424	△31,013	②
管理用機器備品（544点）	217,747	39,410	178,337	
図書（226,257冊）	1,480,698	1,452,539	28,159	
美術参考品（7,973点）	1,358,704	1,352,759	5,945	③
美術参考資料（368種）	64,231	64,231	0	
車両（8台）	2,418	3,570	△1,152	
建設仮勘定（0件）	0	1,536,584	△1,536,584	
特定資産	(17,766,146)	(18,750,764)	(△984,618)	④
第2号基本金引当特定資産	5,019,625	7,019,625	△2,000,000	
第3号基本金引当特定資産	375,806	375,013	793	
減価償却引当特定資産	10,300,000	9,300,000	1,000,000	
退職給与引当特定資産	2,001,862	1,978,841	23,021	
多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産	68,853	77,285	△8,432	
その他の固定資産	(2,496,598)	(2,476,561)	(20,037)	
電話加入権（38台）	2,273	2,273	0	
ソフトウェア（11件）	57,922	55,428	2,494	
有価証券	2,425,913	2,417,461	8,452	
うち、(1)利付国債	625,913	617,481	8,432	
〃 (2)財投機関債	100,000	299,980	△199,980	
〃 (3)銀行債	1,200,000	1,000,000	200,000	
〃 (4)事業債	500,000	500,000	0	
差入保証金	10,434	1,266	9,168	
長期貸付金	56	133	△77	
流動資産	(14,531,515)	(15,474,734)	(△943,219)	⑤
現金預金	14,259,314	15,261,852	△1,002,538	
未収入金	205,417	146,405	59,012	
前払金	65,535	65,920	△385	
立替金	1,249	557	692	
資産の部合計	72,419,702	72,496,542	△76,840	

負債の部

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減	
固定負債	(2,001,862)	(1,978,841)	(23,021)	⑥
退職給与引当金	2,001,862	1,978,841	23,021	
流動負債	(3,680,685)	(4,577,271)	(△896,586)	
未払金	371,335	374,672	△3,337	
前受金	2,996,200	3,909,852	△913,652	
預り金	313,150	292,747	20,403	
負債の部合計	5,682,547	6,556,112	△873,565	

純資産の部

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減	
基本金	(69,324,331)	(68,550,000)	(774,331)	
第1号基本金	63,448,900	60,675,362	2,773,538	⑦
第2号基本金	5,019,625	7,019,625	△2,000,000	
第3号基本金	375,806	375,013	793	
第4号基本金	480,000	480,000	0	
繰越収支差額	(△2,587,176)	(△2,609,570)	(22,394)	
翌年度繰越収支差額	△2,587,176	△2,609,570	22,394	
純資産の部合計	66,737,155	65,940,430	796,725	
負債及び純資産の部合計	72,419,702	72,496,542	△76,840	

減価償却額の累計額	25,867,040	24,958,867	908,173
基本金未組入額	103,778	135,690	△31,912

①学生寮（オリーブ館）新築工事、工芸棟ガラス工房の改修他。
②iMac、椅子、AV機器、プリンタ他。
③奈良原一高寄贈作品7点、岡村吉衛門作品他。
④第3号基本金引当特定資産は寄付金による基本金増により79万円の増加。減価償却引当特定資産残高は10億円増額し103億円。退職給与引当特定資産残高は退職給与引当金が増加したことから2,302万円増の20億186万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し990万円と寄付金及び利付国債による運用益147万円との差額843万円の減少。
保有の有価証券は、引当特定資産分を含め56億3,464万円（令和3年3月末現在の取得価額に対する評価はプラス1億5,646万円）で前年度比7億円の増加。
⑤現金預金残高は前年度比10億254万円減少し142億5,931万円、学生寮（オリーブ館）寮費等の未収入金が5,901万円増加し2億542万円、前払金は38万円減少し6,553万円。
⑥退職給与引当金残高は325名分で2,302万円増の20億186万円。
⑦第1号基本金＝令和2年度の組入額（資産取得）30億1,776万円と前年度未組入れ高の組入れ分1億3,569万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額2億7,614万円と未払金による未組入れ分1億378万円を除いた27億7,354万円を組入れました。

❹ 財務比率〈平成30年度から令和2年度〉

※芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団【今日の私学財政】令和2年度版より算出しました。

△… 高い方が良い　▼… 低い方が良い　―… どちらとも言えない

項目	算式	評価	平成30年度	平成31年度	令和2年度	芸術系平均値
人件費比率	人件費／経常収入	▼	45.7%	45.0%	43.6%	56.1%
人件費依存率	人件費／学生生徒等納付金	▼	52.9%	50.8%	50.5%	70.1%
管理経費比率	管理経費／経常収入	▼	4.7%	6.2%	4.4%	11.5%
借入金等利息比率	借入金等利息／経常収入	▼	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
事業活動支出比率	事業活動支出／事業活動収入	▼	85.2%	87.3%	91.2%	112.3%
基本金組入後収支比率	事業活動支出／事業活動収入−基本金組入額	▼	85.2%	107.3%	99.7%	129.4%
固定資産構成比率	固定資産／総資産	▼	77.6%	78.7%	79.9%	87.8%

項目	算式	評価	平成30年度	平成31年度	令和2年度	芸術系平均値
総負債比率	総負債／総資産	▼	8.9%	9.0%	7.8%	11.3%
補助金比率	補助金／事業活動収入	△	6.2%	5.7%	6.7%	9.3%
基本金組入比率	基本金組入額／事業活動収入	△	0.1%	18.6%	8.6%	13.2%
基本金比率	基本金／基本金要組入額	△	100.0%	99.8%	99.8%	97.3%
教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	△	34.7%	35.8%	43.2%	34.8%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	△	86.4%	88.5%	86.4%	80.2%
減価償却額比率	減価償却額／経常支出	―	17.7%	16.7%	14.4%	13.8%

【比率分析の見方】
- 人件費比率＝経常収入に対する人件費割合を示す比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率＝学生生徒等納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率＝経常収入に対する管理経費の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率＝低い方が良い。本学は平成30年度に完済となり、借入金はない。
- 事業活動支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
- 基本金組入後収支比率＝「事業活動収入−基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける。
- 総負債比率＝低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率＝高い方が良い。私立大学等経常費補助金や競争的資金等の積極的な獲得のための取り組みが必要。
- 基本金組入比率＝資産の充実のためには高い方が良いとされる。
- 基本金比率＝基本金組入対象（教育研究用）資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究経費比率＝経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生生徒等納付金比率＝経常収入に対する学生生徒等納付金の割合で経常収入の中で最もウエートが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率＝経常支出に対する減価償却額の割合で、実質的には消費されずに留保される資金。

まとめ

令和2年度末における本学の財政状況は、学費収入を柱とした安定した収入と、適正な予算配分と管理による支出を徹底することで、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が確保されています。

会計・事業報告につきましては、以下のURL、または右の二次元コードからご覧いただくことができます。
https://www.tamabi.ac.jp/prof/financial/

トピックス

演劇系大学共同制作公演『あたらしい憲法のはなし3』を開催

9月10日～12日、都内の大学で演劇を専攻する学生と36歳以下の新進演劇人による演劇『あたらしい憲法のはなし3』を、東京・池袋の東京芸術劇場で上演しました。これは本学が担当校として企画立案したもので、高等教育機関と公共劇場を含む演劇界を具体的につなぐ取り組みとして、文化庁の令和3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」にも採択されました。日本国憲法が施行された1947年に文部省（当時）が発行した中学1年生の社会科の教科書『あたらしい憲法のはなし』を基に、劇作家である演劇舞踊デザイン・柴幸男講師が2015年に制作した劇を、今回、19年同学科卒業で演出家の西岳さんが新たな脚色・演出を加えて創作。若者たちが憲法について思索し、ときに戦い、話し合って「約束」していく姿を描いた公演は好評を博し、数多くのメディアでも取り上げられました。

演劇『あたらしい憲法のはなし3』の様子

橋本駅付近のリニア工事現場に卒業生5名による作品を掲示

八王子キャンパスの最寄り駅であるJR横浜線・京王相模原線の橋本駅南口近辺では、現在、リニア中央新幹線の神奈川県駅（仮称）建設プロジェクトが進められています。その工事現場の仮囲いに、いずれもグラフィックデザイン卒業生・修了生であり第一線で活躍するクリエイターの久野遥子さん（13年卒業）、ギブミ～！トモタカさん（18年卒業）、ぬQさん（12年修了）、姫田真武さん（13年修了）、中内友紀恵さん（13年卒業）によるイラストレーションが描かれています。それぞれが「リニアのある明るい未来」をイメージした作品がつなげられた、縦約2m、横約15mにわたる大作です。タイトルロゴデザインは12年グラフィックデザイン卒業の金晃平さんが担当し、企画コーディネートを同学科の野村辰寿教授が務めました。このイラストレーションは今後約3年間掲示されます。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。

「リニアのある明るい未来」をイメージして創作

10月29日～31日 WEB芸術祭『TAU loading...』を開催

今夏の新型コロナウイルスの急速な感染拡大を受け、芸術祭実行委員会の学生たちは2年連続となるオンラインでの芸術祭開催を決定しました。今年のテーマは『TAU loading...』。クリック一つで読み込めて、いろいろな刺激を受けられるWEB芸術祭が参加者全員にとっての「ローディング期間」になるというイメージです。大学WEBサイトに掲載した芸術祭実行委員会の学生たちへのインタビューはこちらのQRコードから。

「WEB芸術祭2021」メインビジュアル

米国・アートセンターとオンラインで国際協働教育プロジェクトを実施

10月2日～4日、アメリカ屈指の名門美術大学、アートセンター・カレッジ・オブ・デザインとの国際協働教育プロジェクト「パシフィックリム」をオンラインにて開催しました。今年のテーマは「LIGHT x NATURE」。両大学で選抜された26名の学生をミックスして9つのグループに分け、英語でのディスカッションを重ねながら自然現象と生体模倣の視点から光と自然の融合について探求し、蝶の羽の模様のシェードランプなどのプロトタイプを制作、発表しました。

オンラインで行われた今年の「パシフィックリム」の様子

世界各国の大学が参画する国際機関に加盟

6月10日、本学は世界最大規模の芸術系非営利連合組織「Cumulus Association」に加盟しました。美術・デザイン教育に関するノウハウの交換や研究・大学運営に関する情報の共有、人的交流を促進する組織で、2021年時点で世界61カ国の340校が加盟しています。

昭和大学の協力で新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施

9月と10月の第1週に、八王子キャンパスで新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施しました。本学と2016年より包括連携協定を締結している昭和大学の協力により実現したもので、同大学病院の医師や看護師を派遣いただき、学生や教職員など約1,500人が接種しました。

八王子キャンパスでの職域接種会場の様子

二子玉川ライズで広場演劇「タマゾニア」を開催

10月9日・10日、二子玉川ライズとの地域連携アートプロジェクト『タマリバーズvol.10 広場演劇「タマゾニア～はじめまして…ガブッ！～」』を二子玉川ライズ ガレリアで行いました。統合デザイン学科と演劇舞踊デザイン学科が提供するPBL科目で、企画の立ち上げからコンセプトの設計、脚本、演出、衣裳、小道具、さらにWEBコンテンツやポスターなどのメディア展開まで、所属や学年を超えて学生が主体となって実施しています。昨年はコロナ禍のため中止に。2年ぶり、そして記念すべき10回目の開催となった今回は、多摩川に生きる魚たちの物語をテーマに1日4回の公演を行いました。数々の制限の中、学生たちは生き生きとしたパ

フォーマンスを繰り広げ、訪れた観客から大きな拍手が送られました。

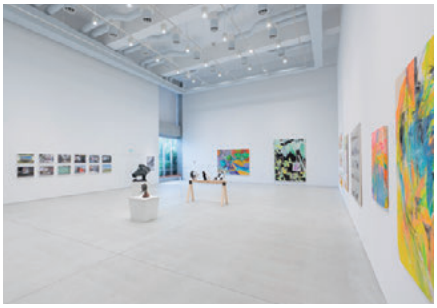
広場演劇「タマゾニア〜はじめまして…ガブッ!〜」の様子

就職支援ポータルサイト「タマキャリ」始動

本学学生のための就職支援ポータルサイト「タマキャリ」が9月1日にリニューアルしました。求人・インターンシップ情報の検索、内定者の活動報告書の閲覧、ガイダンス予約などの他、進路相談やES、履歴書の添削などの対面・オンライン相談予約も行うことができます。さらに、公式Twitterも開設。就職支援のための情報発信を強化しています。

「多摩美術大学助手展2021」を開催

9月13日〜25日、八王子キャンパス アートテークギャラリーにて「多摩美術大学助手展2021」が開催されました。各研究室に助手・副手として所属する作家によって企画・構成された展覧会で、多種多様な表現領域の作品が一堂に会しました。日々の授業運営や学生の制作サポートを担いつつ続けている自身の創作活動や研究成果を発表するもので、今年は44名が参加しました。


「多摩美術大学助手展2021」の展示風景　撮影:竹久直樹

後期授業の開始にあたりメッセージポスターを掲示

コロナ禍での後期の実技科目の面接指導開始にあたり、授業やアトリエでの制作を安心安全に続けられることを目指し、感染防止を呼びかける教職員有志からのメッセージを込めたポスターを制作しました。現在、上野毛・八王子の両キャンパスに掲示しています。また、直径約1メートルの「Keep! Distance」シールを構内の通路に設置するなど、感染対策についての注意喚起を継続して行っています。

3パターン20種類以上のポスターを掲示

アートアーカイヴセンターが「和田誠展」などに資料を貸出

アートアーカイヴセンター(AAC)が、今秋開催の3つの展覧会に協力し、所蔵資料の貸出を行っています。その一つ「和田誠展」(東京オペラシティ アートギャラリー、12月19日まで)は、イラストレーターで59年図案科(現・グラフィックデザイン学科)卒業・和田誠さん(1936-2019)の多岐にわたる創作活動を紹介する展覧会です。AACは和田誠事務所に保管・管理されていた膨大な原画やデザイン制作物など数万点の寄贈を受けており、本展ではその所蔵資料を中心とした作品や資料が展示されています。本展は今後、全国を巡回します。その他「戦後デザイン運動の原点 デザインコミッティーの人々とその軌跡」(川崎市岡本太郎美術館、2022年1月16日まで)と「サウンド&アート展—見る音楽、聴く形」(3331 Arts Chiyoda、11月6日〜21日)にも所蔵資料を貸し出しています。

「夜のマルグリット」ポスター 1957 アートアーカイヴセンター蔵
©Wada Makoto

東工大と一橋大との連携プログラムが価値創造人材育成拠点事業に採択

本学および東京工業大学、一橋大学が共同で申請したプログラム「Technology Creatives Program(通称:テックリ)」が、文部科学省が行う「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」に採択されました。本事業では、エンジニアとデザイナーが学び合いながら価値創造スキルを身に付け、先端技術を活用して社会共創の機会をつかむという従来にない「価値創造人材育成プログラム」の開発を行います。さらに3大学や連携企業による全方位指導体制を通じて、課題発見、解決方法の提案および実施を先導できる能力およびマインドセットを備えた「尖った人材」の育成を目指します。

人事異動

附属アートアーカイヴセンター

光田由里 所員
(2021年4月1日付)

理事

就任 常盤豊
(2021年7月1日付)

新規採用

● **大学院美術研究科**

江村忠彦 助教

● **総務部**

常盤豊 審議役

● **総務部人事課**

塩田章彦 総合職 課長補佐

● **教務部研究支援課**

奥寺洋平 総合職 課長補佐
(以上2021年7月1日付)

● **総合企画部TCL担当**

植竹陽子 常勤嘱託(2021年8月1日付)

● **教務部教務課**

清永茉季 総合職
(2021年9月1日付)

● **財務部経理課**

井伏紀文 常勤嘱託(2021年10月1日付)

退職

● **アートアーカイヴセンター事務室**

橋本ゆつき 常勤嘱託(2021年6月13日付)

● **大学院美術研究科**

金井学 助教(2021年6月30日付)
堤涼子 助教(2021年8月31日付)

● **共通教育**

柏﨑みどり 助手 (2021年7月24日付)

● **学生部キャリアセンター**

石原慎也 総合職(2021年8月31日付)

訃報

髙橋史郎 名誉教授

2021年7月18日 77歳
1970年〜 講師(デザイン科立体)
1976年〜 同助教授
1989年〜 同教授
1996年〜 2003年 教務部長
1998年〜 教授(情報デザイン学科)
2003年〜 2007年 学長
2013年〜 名誉教授

※髙橋史郎先生への追悼文は次号に掲載します。

謹んでお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

受賞

修了生が「第８回東山魁夷記念 日経日本画大賞」大賞を受賞

12年大学院日本画修了の谷保玲奈さんの作品『共鳴／蒐荷』が、「第８回東山魁夷記念 日経日本画大賞」で大賞を受賞しました。また、20年大学院日本画修了・小林明日香さん、94年大学院日本画修了・福井江太郎さん、95年大学院日本画修了・中村ケンゴさんが入選しています。「東山魁夷記念 日経日本画大賞」は、これまで数多くの現代日本画家を輩出している権威のある賞です。今回の受賞を受け、大学WEBサイトの企画で神奈川県・葉山にある谷保さんのアトリエを訪問し、今回の受賞作品についてや制作にまつわるさまざまなお話、多摩美での学生時代で印象に残っていることなどを伺ってきました。掲載記事は上記QRコードからアクセスできます。

『共鳴／蒐荷』谷保玲奈　2018／2020年

卒業生の初主演作品が 仏映画祭でグランプリを受賞

18年演劇舞踊卒業・荒木知佳さんが主演を務めた映画『春原さんのうた』（杉田協士監督）が、フランスで行われた第32回マルセイユ国際映画祭インターナショナルコンペティション部門で、グランプリおよび観客賞を受賞しました（表紙写真）。日本映画のグランプリ受賞は、同映画祭史上初の快挙です。荒木さんは俳優賞も獲得しており、本作は3冠に輝きました。受賞に際して荒木さんは「作品づくりと素敵な出会いは深く関係していると思います。そのことを教えてくださった多摩美術大学にもとても感謝しています」とコメント。本作は2022年1月より順次全国公開を予定しています。大学WEBサイトに掲載した荒木さんへのインタビュー記事は上記QRコードから。

荒木知佳さんが主演した映画『春原さんのうた』メインビジュアル

「TOKYO MIDTOWN AWARD 2021」で彫刻の学生が最終審査に選出

次世代を担うデザイナーやアーティストの発掘・応援、コラボレーションを目的とする「TOKYO MIDTOWN AWARD 2021」のアートコンペ部門で、彫刻4年・柴田まおさんの作品『Blue mob』が最終審査に進む6作品のうちの一つに選ばれました。また、デザインコンペ部門では、応募総数1,122点の中から決定したファイナリスト10組に統合デザイン4年の有留颯紀さん、小笠原勇人さん、18年グラフィックデザイン卒業の根岸桃子さんが選出。両部門ともに最終審査に進んだ作品は東京ミッドタウンで開催された受賞作品展で展示されました。

『Blue mob』柴田まお

「1_WALL」展で大学院生と卒業生がファイナリストに選出

若手アーティストを発掘するコンペティションギャラリー「ガーディアン・ガーデン」の第24回グラフィック「1_WALL」展において、大学院博士2年・汪駿さんと20年油画卒業・髙橋美乃里さんがファイナリストに選出されました。本展は、ポートフォリオ審査による一次審査と、一対一で審査員と対話をする二次審査を通過したファイナリスト5名が、一人一壁面を使って作品を発表するグループ展です。ファイナリスト選出者にはその後の活動を紹介する展覧会「THE SECOND STAGE at GG」開催のチャンスなどが与えられます。

『A-Z』汪駿

『Fossils of shelves』髙橋美乃里

「第８回山本鼎版画大賞展」で大学院生が優秀賞を受賞

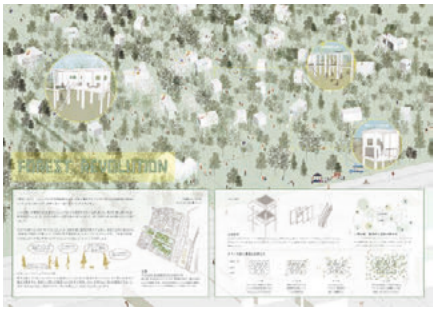
版画の全国公募展「第8回山本鼎版画大賞展」で、大学院版画1年・三宅葵さんが優秀賞を受賞しました。本展は、日本の近代版画の扉を開いた山本鼎にちなみ、若手作家の登竜門となるべく開催されているものです。三宅さんの受賞作品を含む入選作品156点を展示する展覧会が、11月14日まで長野県上田市のサントミューゼ 上田市立美術館で開催中です。

『なおちゃんとねこ』三宅葵

環境デザインの学生が建築デザインコンペティションで最優秀賞を受賞

「Vectorworksデザインスカラシップ」建築部門で、環境デザイン4年・王家文さんが最優秀賞を受賞しました。本コンペティションは、建築やイ

ンテリア、ランドスケープなどの分野を専攻する高校生、大学生などを対象としています。受賞作品『FOREST REVOLUTION』は、周りの自然環境の状態によって自由に動かせる建物群で構成したオフィスデザインで、「自然を戻す建築形式」をテーマに有機と無機の共存を目指した「成長系建築」を提案したものです。審査員からは「都市の緑地にマイクロストラクチャーの村を挿入し、新たなコミュニティや自然との共生を示唆させる素晴らしい提案」と高い評価を受けました。



『FOREST REVOLUTION』王家文

「TERRADA ART AWARD 2021」のファイナリストに修了生が選出

寺田倉庫株式会社が開催する「TERRADA ART AWARD 2021」のファイナリストに、17年大学院油画修了・川内理香子さんが選出されました。本アワードの対象活動は広く、絵画、身体表現、音楽など、全ての媒体を含む現代アート作品全般です。今回は国内外から1,346組の応募があり、最終選考を経て川内さんを含めた5組がファイナリストに選ばれました。12月10日〜23日の間、東京・品川区の寺田倉庫イベントスペースにて「ファイナリスト展」を開催。会期中には各審査員賞が発表される他、一般投票が実施され、オーディエンス賞も決定します。

photo：Mie Morimoto

「アワガミ国際ミニプリント展2021」で版画卒業生が準大賞ほか多数受賞

和紙を使った版画作品の公募展「アワガミ国際ミニプリント展2021」で、04年大学院版画修了・渡邊加奈子さんの作品が準大賞に選ばれました。また、14年版画卒業・岡田育美さんが優秀賞を受賞した他、20年版画卒業・滑良奈央さんがアワガミファクトリー賞を、TCL職員の18年大学院版画修了・杉山衿香さんが審査員小林敬生賞を、05年大学院版画修了の熊崎阿樹子さんが審査員徳島県立近代美術館賞を受賞しています。全ての応募作品が、徳島県各所で11月7日まで展示されました。

『Paper Crown』渡邊加奈子

「Portrait of Japan」で修了生がグランプリを受賞

株式会社アマナIMAプロジェクト主催の「Portrait of Japan」で、21年大学院グラフィックデザイン修了の卞敏さんが、グランプリを受賞しました。本コンテストは、イギリスのメディア「1854」が運営する写真アワード「Portrait of Britain」の日本版として今年初めて開催されたものです。受賞作品『いまここ』は、コロナ禍の留学生が抱く未来への不安な気持ちを表現しており、審査員を務めた写真家ヘレン・ファン・ミーネさんにより選出されました。

『いまここ』卞敏

卒業生が2年連続でベネチア国際映画祭VR部門にノミネート

VRアーティストの伊東ケイスケさん（10年グラフィックデザイン卒業）が監督を務めたVRアニメーション『Clap』が、第78回ベネチア国際映画祭バーチャルリアリティ（VR）部門「VENICE VR EXPANDED」に、アワードの選考対象となるコンペティション作品としてノミネートされました。ベネチア国際映画祭における伊東さんの作品ノミネートは、昨年の『Beat』に引き続き、2年連続となります。

『Clap』ポスター

アピチャッポン特任教授がカンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞

大学院生対象の横断型プログラム「エクスペリメンタル・ワークショップ（EWS）」のアピチャッポン・ウィーラセタクン特任教授が監督を務めた映画『Memoria』が、第74回カンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞しました。イギリスの女優ティルダ・スウィントンを主演に迎えた作品です。アピチャッポン特任教授は2020年度に就任後、オンラインレクチャーなどを実施。今年度は来年3月上旬に「Memories」をテーマに対面での集中ワークショップを予定しています。

Photo：Courtesy-of-Kick-the-Machine-Films

卒業制作展

本年度の卒業制作・修了制作展は、下記の開催を予定しています。

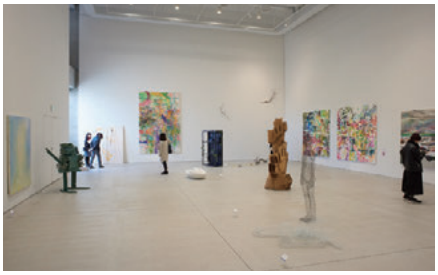
八王子キャンパス学内展

A日程 2022年1月13日（木）〜2022年1月16日（日）

日本画・油画・版画・彫刻・工芸・テキスタイルデザイン・環境デザイン・メディア芸術・情報デザイン

B日程 2022年3月13日（日）〜2022年3月15日（火）

グラフィックデザイン・プロダクトデザイン・芸術学・統合デザイン・演劇舞踊・劇場美術デザイン



昨年の学内展の様子

東京五美術大学連合卒業・修了制作展

2022年2月26日（土）〜2022年3月5日（土）

国立新美術館で開催予定

多摩美術大学美術館

多摩市落合1-33-1｜10:00～17:00(最終入館16:30まで)｜火曜休館｜
一般＝300円 ／ 20名以上の団体＝200円
(障がい者および付添者、学生以下は無料、卒業生も校友会カードの提示により無料)

10月2日[土]～11月21日[日]

寺田小太郎 いのちの記録
ーコレクションよ、永遠に【後編】「継承」

2019年、本学は東京オペラシティビル地権者の一人である故・寺田小太郎氏(1927-2018)から、59点の作品を受贈いたしました。これを記念し7月から9月にかけて開催した本展の前編「起源」に続き、後編は「継承」をテーマに、寺田氏が収集活動と、自身のコレクションに込めた想いをたどります。

[関連イベント]

ゲスト・トーク「記憶の中の寺田さん」

府中市美術館館長 藪野健 氏 × 多摩美術大学美術館館長 鶴岡真弓

※多摩美術大学美術館 YouTubeチャンネルにてアーカイブ動画を配信予定です。

アキバタマビ21

タマビが運営する新しい創造の場　3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手掛ける企画展を、年間約8回開催しています。
千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 201・202｜12:00～19:00(金・土は20:00まで)｜火曜休場｜入場無料

10月9日[土]～11月6日[土]

第92回展
「The Edge of Animation」

独特な存在感を放つアニメーション作家4人のグループ展。普段のクライアントワークでは見ることのできない、パーソナルで純度の高い作品を展示します。
出品作家＝山田遼志、平岡政展、稲葉秀樹、有吉達宏

11月24日[水]～12月26日[日]

第93回展「粒光」

瞬間的なひらめき、万物を構成する声と文字の手触り、関係性の網の目、「ながれゆくもの」といったものを含みもつ「粒光」という造語を軸に、5人の表現者が作品を発表します。
出品作家＝岩崎友哉、齊藤コン、高嶋文哉、成清祐太、林暢彦

アートテーク

八王子キャンパス内｜ギャラリー開場時間10:00～16:00(展覧会による)｜日曜・授業日以外の祝日休館｜入場無料

12月4日[土]10:00～17:00

第4回多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム
「アーカイヴの思想」

オンライン開催：無料・事前登録制　詳細はHPでご確認ください。

以下は、ギャラリーで開催予定の展覧会です。

11月8日[月]～17日[水]　**TAMA VIVANT II 2021 ー呼吸のかたち・かたちの呼吸ー**

11月23日[火・祝]～12月9日[木]　**博士後期課程20周年記念展**

12月10日[金]～24日[金]　**丸山浩司退職記念展「深淵の杜2021」**

多摩美術大学 TUB

“まじわる・うみだす・ひらく”をコンセプトに、オープンイノベーションによる価値の創出、幅広い層に向けたデザインやアートのプログラムの提供、学生作品の展示・発信を通してデザインとアートの持つ創造性と美意識を社会とつなぐ場を提供しています。
港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー 5F(東京ミッドタウン・デザインハブ内)｜11:00～18:00｜日曜・祝日休館｜入場無料

12月1日[水]～26日[日] ※会期中無休

東京ミッドタウン・デザインハブ
第94回企画展「Tama Design University」

これからの時代に、必要なデザインとは何なのか？本展では、デザインの先端領域および、隣接する分野、社会的なテーマに着目し、問いを立て、多彩なデザインについての講義を行います。デザインの「今」を学び、デザインの「これから」を考える機会とします。

TAMA DESIGN UNIVERSITY

展覧会・公演

10月15日[金]～11月20日[土]　SNOW Contemporary
油画｜日野之彦 准教授
日野之彦「窓辺」

10月16日[土]～12月5日[日](本館)、
10月2日[土]～11月28日[日](分館)　島田市博物館
日本画｜八木幾朗 教授
第86回企画展本館・分館共同「八木幾朗墨画考」

10月20日[水]～12月28日[火]　FUJIFILM SQUARE
グラフィックデザイン｜上田義彦 教授、他
フジフイルム・フォトコレクション
特別展「師弟、それぞれの写真表現」

11月1日[月]～13日[土]　表参道画廊
芸術学｜大島徹也 准教授(キュレーター)
Pictorially yours,

新刊

ビジネス戦略から読む美術史
西岡文彦 著(共通教育｜教授)
新潮社｜6月17日刊｜
836円(税込)

アメリカの〈周縁〉をあるく：旅する人類学
中村寛 著(共通教育・芸術学｜教授)、他
平凡社｜7月23日刊｜
2,970円(税込)

現代色彩論講義
――本当の色を求めて
港千尋 著・写真(メディア芸術｜教授)
永原康史 装幀(情報デザイン｜教授)
インスクリプト｜8月4日刊｜
1,980円(税込)

アニエス・ヴァルダ
愛と記憶のシネアスト
金子遊 編(芸術学｜准教授)、
吉田悠樹彦 編(共通教育｜非常勤講師)、他
neoneo編集室｜8月16日刊｜
2,200円(税込)

現代日本のブックデザイン史
1996-2020
デザインスタイルから読み解く
出版クロニクル
長田年伸 著(芸術学｜非常勤講師)
水戸部功 編(02年情報デザイン卒業)、他
誠文堂新光社｜8月18日刊｜
3,300円(税込)

剝製篇
建畠晳 著(学長)
思潮社｜9月1日刊｜
2,860円(税込)

本学の新型コロナウイルス感染症対策に準じて、開場時間や内容が変更となることがございます。HPで事前に確認してからご来場ください。

「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。総合企画部(TEL:03-3702-1168 ／ e-mail:news@tamabi.ac.jp)までお知らせください。

Tama Art University

多摩美術大学 広報誌「TAMABI NEWS」2021年11月8日発行 第30巻 第2号 通巻88号
発行:多摩美術大学 東京都世田谷区上野毛3-15-34 電話:03-3702-1141(代表) 編集:総合企画部